

片平新日本技研

中村 正人氏

片平エンジニアリングと新日本技研はことし8月1日付で合併、「片平新日本技研」として新たなスタートを切った。中村正人社長は「グループ会社である片平エンジニアリング・インターナショナルのここの売上高が58億円だ。この合併を機に、片平グループとして国内50億円、海外50億円の合計100億円を目指したい」と意欲を示す。中村社長に経営のかじ取りなどを聞いた。



——就任の抱負を

「道路に強い片平エンジニアリングと、構造に強い新日本技研とが合併したことで、『交通インフラ総合コンサルタント』を目指していく。片平エンジニアリング・インターナショナルは、長大橋の技術を海外で展開していきたい。合併後、アフリカのマラウイ共和国で『リロングウェ市主要幹線道路改修計画協力

新 社 長 Interview

道路と構造、さらに強化

準備調査』をJICA(国際協力機構)から受託した。両社の連携が進んでおり、受注も着々と増えている。道路と構造を強くして、新しい分野

に取組んでいきたい」
——合併によるシナジー効果は
「この2年間、片平エンジニアリングの受注金額は24億25億円だったが、ことし9月には約30億円に拡大した。社員が頑張った効果が表れている。国内は新規の案件が少なく、保全・点検のほか、PPPなど新しい業務を取り込んでいかなければ受注は厳しい。まちづくりなど新しい分野にも挑戦していきたい。日本初の有料道路コンセッション(運営権付与)事業である『愛知道路コンセッション』にも参画している。当社は特にNEXCOの関連会社とのパートナーシップ関係があり、そつした仕事も増えている。3Dレーザースキャナー、UAV(無人航空機)などに提案して、それらを受注していききたい。NEXCO西日本九州支社が発注した設計・施工管理一体の『平成29年度久留米高速道路事務所管内北部地区橋梁耐震補強設計』と『平成29年度久留米高速道路事務所管内北部地区施工管理業務』を受注することができた。初弾業務を受注できたので、今後も取り組みを進めていく。海外は、片平エンジニアリング・インターナショナルと連携して長大橋の需要があれば提案していく。ベテランの社員とともに若い社員にも経験させたい」
——今後の将来像は
「当社は『交通』の部署がある。道路保全を行うにしても、『どのような迂回(うわが)路が考えられるか』など、ソフトもセットにして提案し

ていく。各支店には、『道路』『交通』『構造』の部署を置いていきたい」

* *

(なかもら・まさこ) 1970年3月山梨大工学部土木工学科卒後、同年4月日本道路公団入社。98年7月本社技術部調査役、同年11月高速道路技術センター建設技術部長、2001年4月片平エンジニアリング入社、同年11月常務04年11月専務を経て、08年11月から社長。山梨県出身。47年11月20日生まれ、69歳。

記者の目

早口で、エネルギーに語る。両社の合併に当たっては、2016年8月の技術提携協議から1年を要したが、もともとのきっかけは、1983年にバン格拉デシュに出張した時の調査団のメンバーの1人が後に新日本技研の役員になったことが発端だ。「40年くらい前の縁がきっかけでここまでできた」と振り返る。趣味は、トランプのコントラクトブリッジや庭木の剪定(せんてい)など。